

う名前が付いていますが，食卓に上るヤマトシジミはシジミ科で，所属する科がまったく違います．

オキシジミというと，沖まで生息しているような気がしますが，湾奥の潮間帯から水深ほぼ20mまでの砂泥底にしかいません．河口域にはヤマトシジミが生息し，さらに上流の淡水域には小型で，黄色をおびたマシジミが生息します．



2004年5月17日に灘で採集した若い個体．

左の貝は殻高2.5cmほどのまだ若いオキシジミです．放射状の細かい線があることと，殻の周縁部が紫色をおびるのも本種の特徴です．

下の写真は1ページの貝と同じ衣ヶ島で4月7日に採集しました．しかし，明らかに色が違います．この貝はかな

ない所に棲んでいました．浦戸湾では，10cmも掘ると真っ黒で腐敗臭を放つ底質の場所が随所にあります．明らかに酸素不足，すなわち還元状態で，ヘドロ化寸前の好ましくない環境です．このような真っ黒いオキシジミは浦ノ内湾と須崎湾の湾奥でもしばしば見つかります．

本種は房総半島以南，朝鮮半島，中国に分布します．*sinensis*は「中国の」という意味です．



2004年4月7日衣ヶ島で採集．

2004年11月28日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします．